

平成 23 年度環境技術実証事業

自然地域トイレし尿処理技術ワーキンググループ会合（第 4 回）議事要旨

日時	平成 23 年 12 月 7 日（水）14：00～16：50
場所	港区生涯学習センター304 学習室
出席者	検討員：相野谷誠志（（株）蒼設備設計） 岡城孝雄（（財）日本環境整備教育センター企画情報グループグループリーダー） 河村清史（埼玉大学大学院 教授）（座長） 木村茂雄（神奈川工科大学 教授） 桜井敏郎（（社）神奈川県生活水保全協会理事） 穂苅康治（槍ヶ岳観光㈱代表取締役） 吉田直哉（神奈川県自然環境保全センター主査） 五十音順 環境省：自然環境局自然環境整備担当参事官室（広野行男） 自然環境局国立公園課公園事業専門官（佐藤隆） 総合環境政策局環境研究技術室調整係長（武部憲和） 事務局：NPO 法人山の ECHO（上幸雄、加藤篤、永原龍典）
議事	（1）実証試験進捗状況について（非公開） （2）技術セミナーの開催について （3）ガイドブック構成の検討について
配付資料	資料 1 実証試験 経過報告（非公開） 資料 2 技術セミナー開催（案） 資料 3 ガイドブック原稿案
公開／非公開	議事は公開で行なわれた（議事 1 は非公開）

議事

（1）実証試験進捗状況について（非公開）

- 実証機関より試験の進捗状況について説明を行った。
- 申請書中の「ろ過・吸着」のほかに、生物処理による処理効果があった可能性があることから、処理方式の名称について再度検討する必要がある。
- 試験の中で装置に施した工夫点等について、成功例や失敗例も含めて報告書に記すことが望ましい。
- 一定の条件下で設置することが可能な方式であることについて、明示する必要がある。

（2）技術セミナーの開催について

- 原稿や時間配分について次のように再配分する。（河村：10分、桜井：30分、岡城：20分、木村：30分、相野谷：10分、吉田：20分、穂苅：20分、とする）

- ガイドブックを作成したことについて、事務局より5分程度の報告を冒頭に行うこととする。
- セミナーでは、詳細な内容はガイドブックを見てもらうこととして、事例などによる解説も可能とする。
- 開会前の時間を使い、パネル展示や技術相談を行うことも含めてプログラムの調整を行うこととする。

(3) ガイドブック構成の検討について

- サブタイトルについて「海浜」となっている点を、実施要領で使用している「海岸」で統一させる他、本文中の文言について注意して統一作業を行う必要がある。
- 印刷をモノクロで行う場合は、図表などの見やすさには注意が必要。
- 実証技術以外にも触れていることから、「実証試験を実施したものを中心として表記」との旨の注釈を入れる必要がある。
- 実証事例などは、平成22年度までの内容を基本として構成する。
- 処理方式の名称や高度処理など、用語について整理する必要がある。
- 文書体裁として、見出しレベルの上位関係が分かるような編集を行う必要がある。
- 図表の引用について、参考資料の書き方などを統一する必要がある。
- 今後のスケジュールについて、事務局より全体の修正事項等の方針をまとめ、委員に送付。検討員より1月9日までに修正原稿の送付を受け、最終原稿の編集を行うこととする。